

ほほえみ

第 263号
令和2年
9、1 発行



今回のテーマ
『難聴と補聴器について』です。

③ “きこえ” チェック

- 家族から聞こえが悪くなったと言われる。
- 会話が聞き取れず、適当に話を合わせてしまう
- テレビのボリュームが大きい、ロイヤの音が重なる
- 聞き間違いが多い 会話のまとまりが
- 聞き返すことが多い
- 銀行や病院の窓口などで、名前を呼ぶ声が聞こえない

③ 難聴（聴覚障害）とは

音が聞こえにくい、言葉が聞き取りにくい、あるいはまったく聞こえないといった症状を「難聴」といいます。聴力は一般的に30歳代を境に衰えはじめ、特に高音域から低下していきます。耳の聞こえには、外耳、内耳、脳といった各部位が適切に働くことが必要です。しかし、何らかの原因で各部位に異常が起こると聴覚障害が起きます。



③ 原因

— 先天的な原因 —

- 妊娠期間中の感染症（風疹ウイルス）
- 虫歯牛などの内耳奇形など

— 後天的な原因 —

- 歩行度が高いのは、加齢による聴力機能の衰え
- 突発性難聴、脳腫瘍、中耳炎、耳垢の貯留、慢性的な大きな騒音

◀ 難聴があり補聴器を検討されている方へ ▶

③ 補聴器適応... 日常生活に不都合が生じたり補聴器を使い始めるタイミングといえますが、聴力の数値も目安になります。

■ 難聴の程度分類（日本聴覚医学会難聴対策委員会 2014年）

程度分類	平均聴力(dB)	自覚	推奨の対応
正常	25未満		
軽度難聴	25以上~40未満	小さな声や騒音下での会話の聞き間違いや聞き取り困難を自覚する	会議などの聞き取り改善目的では、補聴器の適応となることもある
中等度難聴	40以上~70未満	普通の大きさの声での会話の聞き間違いや聞き取り困難を自覚する	補聴器のよい適応となる
高度難聴	70以上~90未満	非常に大きい声か補聴器を用いないと会話がかたくなし、聞き取りには限界がある	補聴器
重度難聴	90以上~	補聴器でも聞き取れないことが多い	人工内耳の装着が考慮される

平均聴力の求め方 聴力検査で500、1000、2000、4000Hz(周波数・音の高さ)における聴力(dB)の値を足して4で割る

③ 補聴器の効果

補聴器は、補聴器を装着すると昔と同じような聞こえに戻るわけではありません。今まで聞こえなかった音が聞こえるようになることで、生活の様々な場面での不便が軽減され、より快適に暮らすことができます。

③ 補聴器の音に早くなじみ、補聴器を活用するために

補聴器を着け始めての1週間、今まで聞こえていなかった音が聞こえるため「騒い音は聞いていけない」と補聴器のメリットより、とうとう感じてしまうことがあります。しかし、そこで諦めずに、疲れたら外して休む習慣をつけていくことが補聴器を早く活用するためのポイントです。これは、聴力が衰えて音が聞こえない状態に慣れてしまった脳を音のある状態に慣らす必要があるからです。最初は「音のトレーニングだ」と思っ、できるだけの時間、いろんな音を積極的に聞くようにしてみましょう。そして補聴器をうまく使いこなして、よく聞きとることを実感できるまでにはある程度の期間が経つことになることを理解しておきましょう。

③ さいごに...

まずは、「自身の聞こえの状態を正確に知ることが大切です。また難聴の原因を調べてもらいましょう。もしかしたら、耳垢が詰まっていたり、浸出性中耳炎だったり等、補聴器が必要でないこともあります。もし、補聴器の適応だ、た場合は聞こえが悪く一定の基準に満たすと聴覚障害の障害手帳を申請し、補聴器購入の補助を受けられる場合もあります。



“きこえ”チェック何個当てはまったか項目に当てはまる場合
一度耳鼻咽喉科に相談してはみることも

